

時報 世宗

增刊号

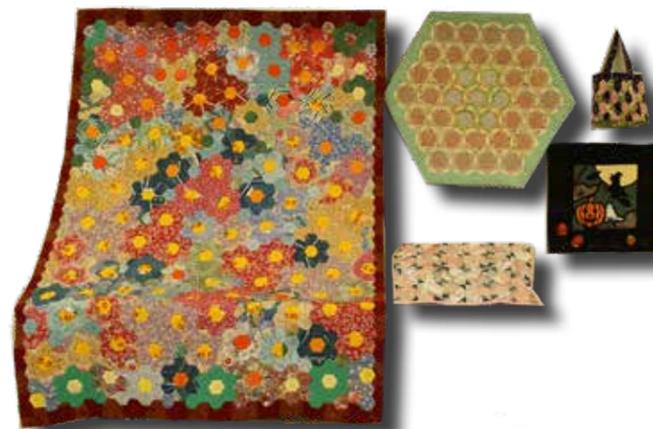
総合文化祭作品展・菊花展



作品展・菊花展

今年度の小布施町文化の祭典「総合文化祭」は、新型コロナウイルス感染症対策のため、紙面での開催となりました。講座・教室の開催日数が限られた中で丹精込めて制作された作品をご覧ください。

作品展



キルトの会



ものづくりの会



楽々手芸教室 (公民館講座)



日本画

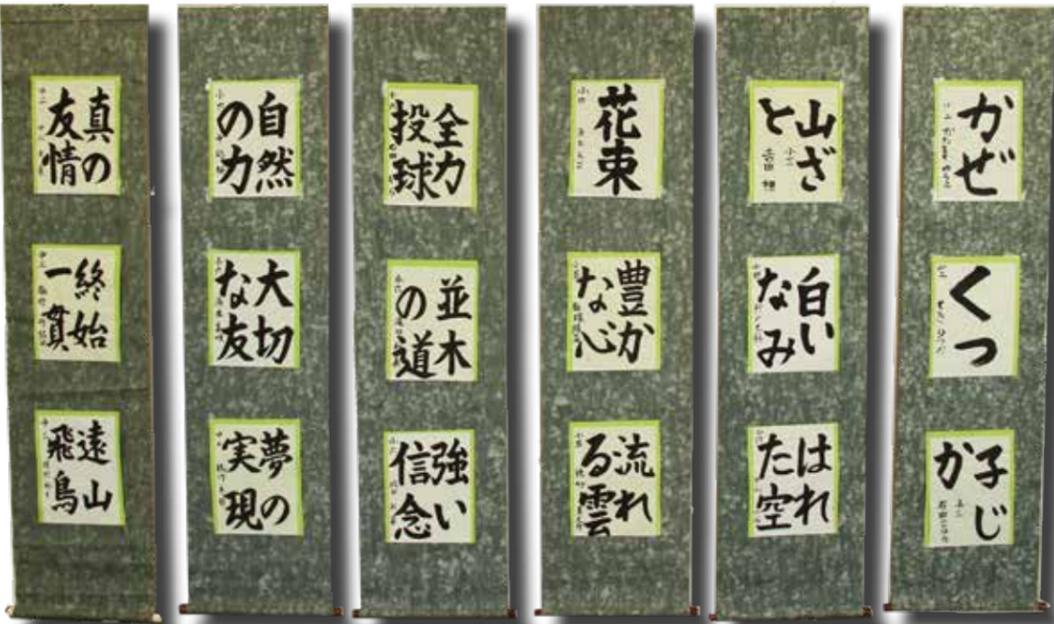


飯川書道教室

初心者書道教室 (公民館講座)



彩の会 (絵手紙)



田中書道教室



写真同好会



リスの会 (絵手紙)



萩筆の会



小林書道教室



小布施菊花展 11月1日(月)～10日(水)



町のホームページでは小布施町公民館作品展や菊花展の様子をご覧いただけます。

小布施町 総合文化祭

 作品展
 菊花展

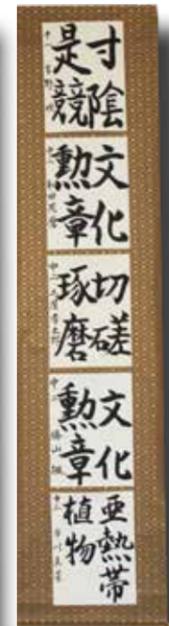
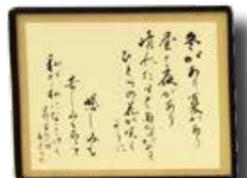
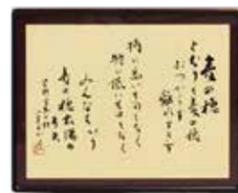
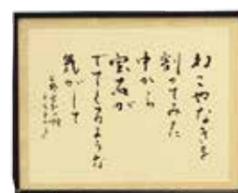
携帯電話などでQRコードを読み取ってください。



栗華会 (一般)

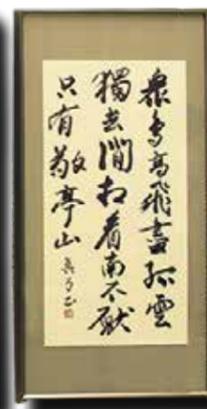
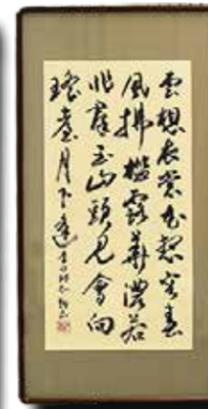


ひかりの会 (なごみ絵)



吉池書道教室

みずくき会 (現代書き 星野富弘の詩を書く)



吉池書道教室

歴史ある書展で最高賞を受賞

1月20日から東京都美術館で開催された第62回太玄会書展で、小林まさ子さん(林)の作品が最高賞の太玄賞に選ばれました。歴史のある太玄会書展は、長野県の真仙会など15団体でつくる太玄会が主催する書展で全国から737点の出品がありました。作品は、万葉集第一巻二番の長歌を横作品として構成されたものです。小林さんは「コロナ禍で展示会が中止になり目標を失いそうになりましたが、気持ちを落とさず、青丹会会長の吉川美恵子先生の指導のもと真摯に取り組みました」と喜びを語りました。



晩秋の皇大神社を彩る

小布施菊花展が、11月1日㊥～10日㊦に皇大神社で開催されました。大輪の菊や懸崖などのほか、栗ガ丘小学校6年生が育てた北斎巴錦も展示されました。観菊していた東京から来た二人の女性は「大きくて立派な菊がたくさん並んでとてもきれいでした。菊と神社の紅葉を両方楽しめました。また来年も訪れたいです」と満開の菊を写真に収めていました。丹精込めて育てられた北斎巴錦をはじめ白や黄色の大菊は晩秋の皇大神社を華やかに彩りました。

中止となりました。一昨年の台風19号災害と昨年のコロナ感染対策による中止のため、総合文化祭は3年連続して開催できませんでした。小布施では1948(昭和23)年に初代館長の林柳波氏により公民館活動がはじまりました。今日に至る間、多くの町民が集い、学びの場として研鑽を重ねた成果を総合文化祭で発表してきました。長い歩みのなかで、文化祭が3か年連続して開催されなかったことはありません。今年度、コロナ禍の中でも各団体の皆さんは総合文化祭を目標に制作活動を続けてきました。そこで、公民館作品展、菊花展を紙上发表させていただきましたこととしました。直接会場にお越しいただき、作品をご覧いただくことはできませんでしたが、町民の皆さんが丹精込めて制作した作品をご覧いただけましたら幸いです。来年はコロナが収束し、大勢の皆さんが参加いただけることを願っております。



公民館長 市村 勝巳

今年度の小布施町文化協会と公民館共催による総合文化祭は新型コロナウイルス感染拡大防止のため



文化協会会長 市村 憲彦

自粛生活の中多くの皆様より作品をお寄せいただきました。例年のような発表の場は失われ

ていますが、学ぶ姿勢は貧欲に確保されています。皆様の尊い心に感謝します。生活におけるマスクの励行、マナーの順守、ワクチンの接種率の高さなど、これに真摯に向かい合う日本人としての民意の高さは国民の誇りであり、結果感染者の減少に結びついたと信じています。この短い時間の中で、改良されたマスクや消毒機器、体温自動計測器などが開発され、さらに治療薬などが少しずつ身近なものとなって行く事でしょう。おそらく来年は総合文化祭も復活し、私たちは再び表現の自由を手にして更なる文化の高揚を目指し新しい活動を歩み始められると思います。自分の作品を、またお互いの作品を紙上で学べる感動は素晴らしい事です。ご尽力いただきました編集担当者皆様に心から謝意を申し上げます。

小布施町公民館作品展・菊花展の開催に寄せて